



DynaScan

DSM365

内蔵メディアプレイヤー

ユーザーガイド

目次

1. DSM365とは P. 3
2. DSM365を起動させる P. 4
3. Play 簡単再生機能 P. 5
4. Playlistの作成 P. 8
5. Campaign スケジュール作成 P.10
6. Fileを内蔵メモリーに移動する P.14
7. Template機能 P.18
8. Config 基本設定 P.21
9. 対応コーデック一覧 P.22

DSM365とは

ダイナスキャンのディスプレイ製品はサイネージ用途などのため、外部のPCやメディアプレイヤーと接続したモニターとしての使用を前提に設計されています。

一方、そういったPCやメディアプレイヤーの故障、或いはネットワーク回路の断線などによりコンテンツが再生されないといった事態を避けるため、簡易メディアプレイヤー機能が搭載されています。本機能DSM365は単一コンテンツのみならず、組み合わせたコンテンツの再生や週間再生スケジュールの設定など、豊富な機能で、フェイルオーバー対応として、又、簡単にコンテンツを取り込んでスタンドアロンで行う簡易サイネージの映像ソースとして有効な活用が可能です。

機能概要

動画コンテンツ

MOVIE

静止画コンテンツ

PHOTO

USBメモリやSDカードに記録した静止画・動画コンテンツを再生したり、セットの内蔵メモリにコピーして以下の通り操作することが可能。

■ Play ~各コンテンツの再生（フォトフレーム的利用）



■ Playlists ~プレイリスト Playlistsコンテンツの作成・保存と再生



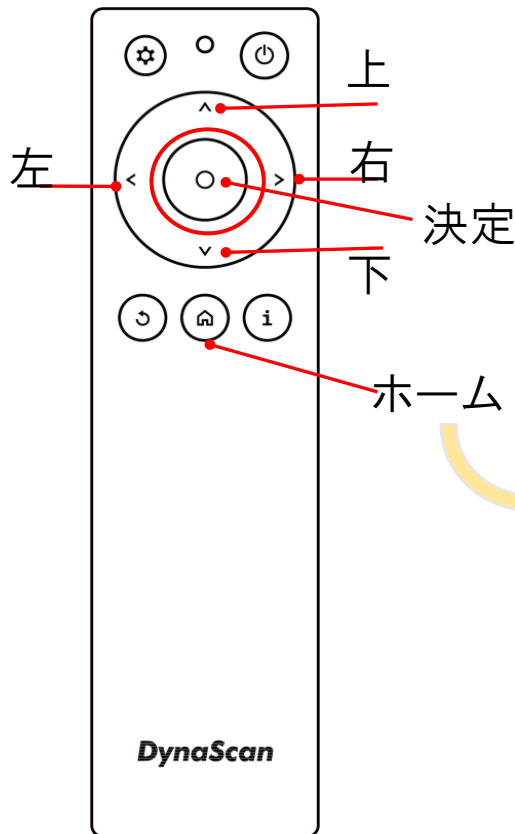
■ Template ~テンプレートTemplateコンテンツの作成・保存と再生



■ Campaign ~一日・週間のコンテンツ再生スケジュールの作成・保存と再生

DSM365を稼働させる

DSM365に切り替えるには下図の決定(Enter)ボタンを押します。外部入力ソースが無く、DSM365の内部メモリーに既にコンテンツがメモリーされている場合、自動的にDSM365により再生が開始されます。何も入力の接続が無い場合、ホームボタンを押すとAndroid画面に移行し、決定ボタンを押すとAndroidのMenuが表示されますので、DSM365を選択ください。DSM365のMenu画面が表示されます。



DSM365の操作にはリモコンを使用します。基本的に上下左右にカーソルを動かすキーと中心の決定ボタンを使用して操作します。

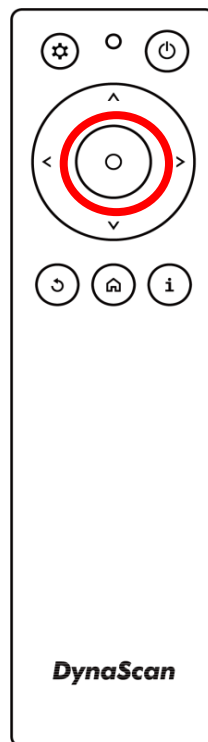
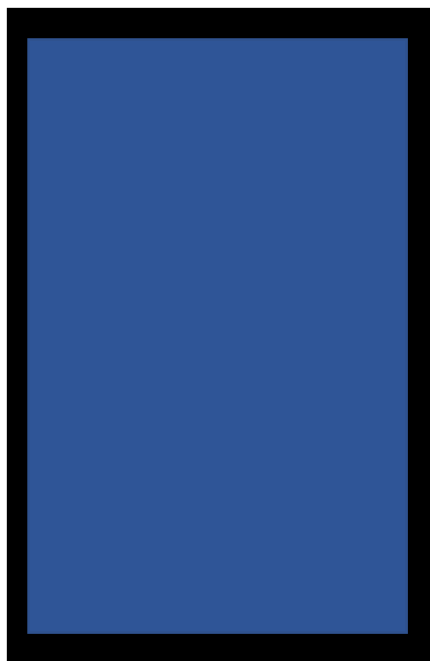


Play 簡単再生機能

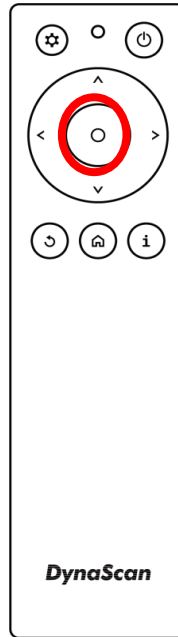
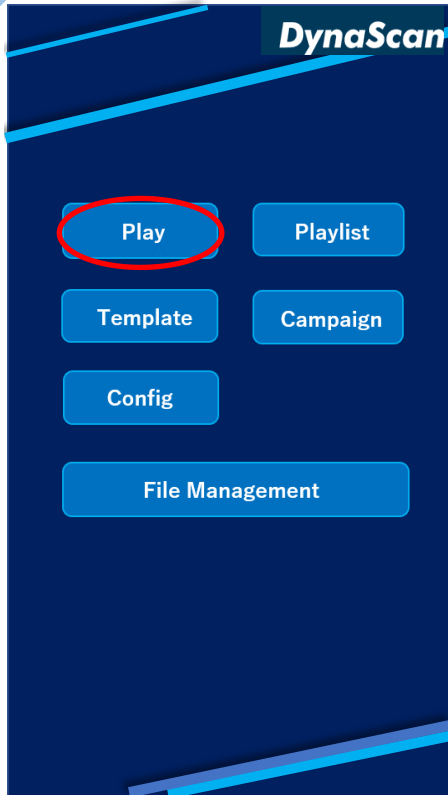
まずに**USB**に記録した静止画や動画のコンテンツの再生を試みましょう。

再生したいコンテンツを記録した**USB Memory**をディスプレイ背面の**USB**端子に挿入してください。

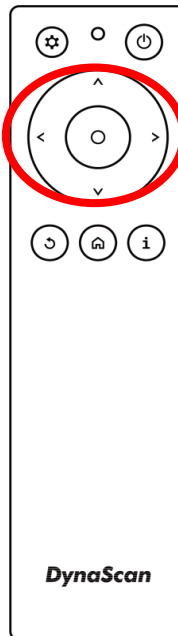
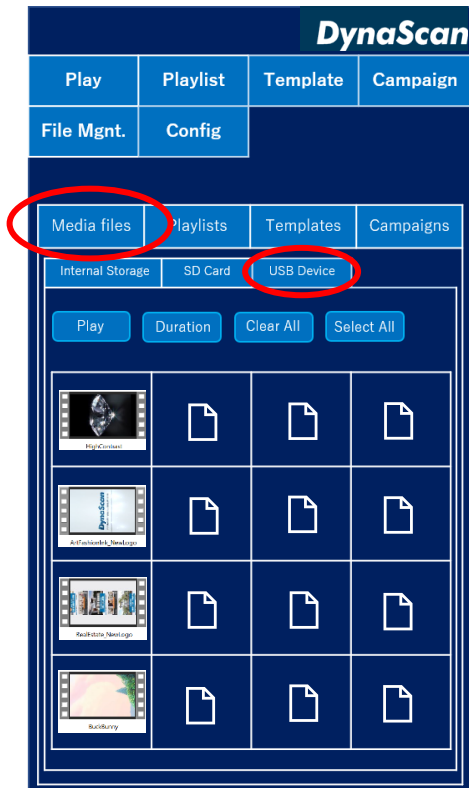
決定ボタンを押して**DSM365**の**Menu**画面を出します。最初の画面が出てきたら**Play**ボタンを選択し**OK**を押します。



Play 簡単再生機能

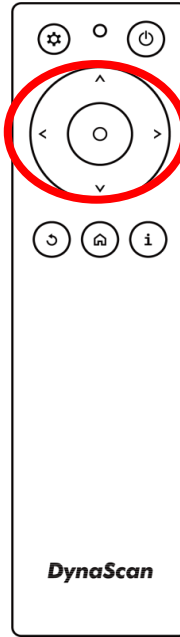
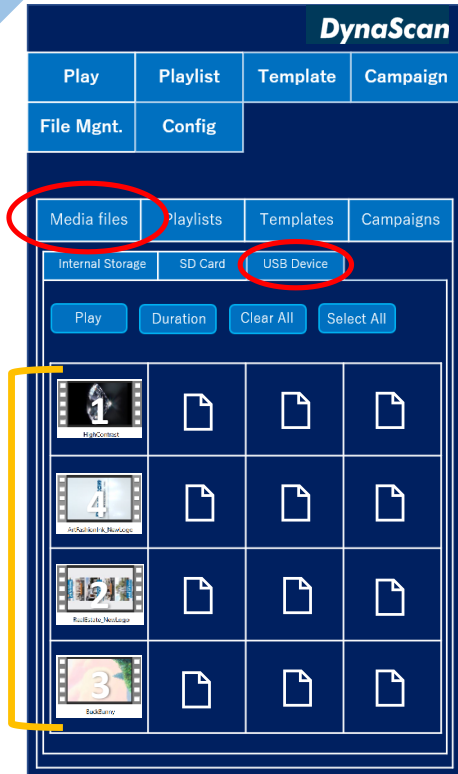


DSM365のメニュー画面の[Play]を選択し、リモコンの決定ボタンを押します。



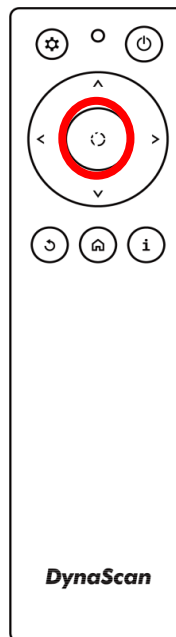
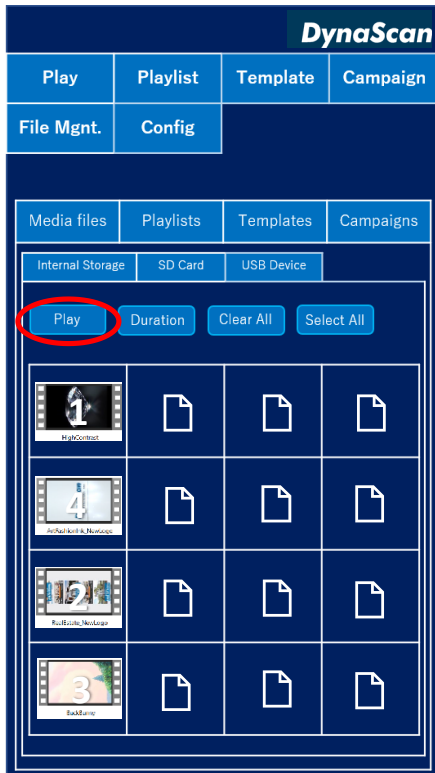
メニュー画面の[Media files]を選択→決定、次にUSB Deviceを選択→リモコンの決定ボタンを押します。

Play 簡単再生機能




USBメモリに格納されたファイルがサムネイル表示されますので再生したい順番に選択しリモコンの決定ボタンを押します。ファイルのサムネイル上に再生する順番が表示されます。

静止画の再生時間は [Duration] を選択して設定します。全てのファイルを選択する場合は [Select All] を、また一旦選択した内容を全て取り消す場合は [Clear All] を選択し決定を押します。



[Play] を選択し決定ボタンを押しますと再生が開始されます。

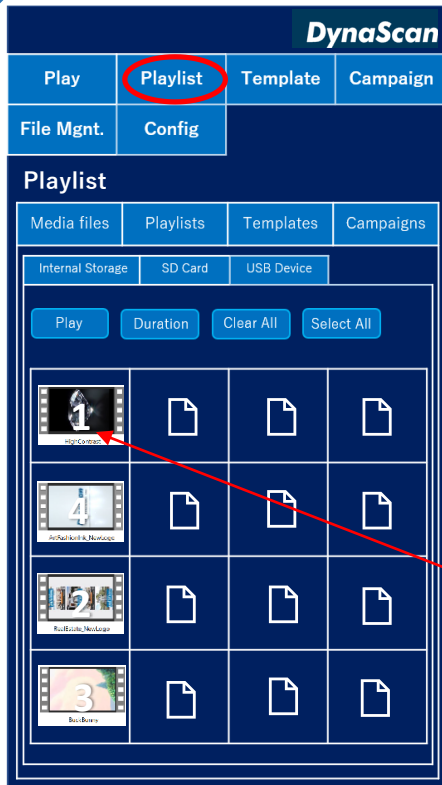
注)

a. 静止画の再生時間を設定するには  Duration を選択して時間を設定できますが、この簡易操作の場合はすべての静止画コンテンツが同じ再生時間になってしまいます。

(最後に設定した時間になります。) それぞれのコンテンツの再生時間を個別に設定が必要な場合は口述のPlayListsの方法で設定下さい。

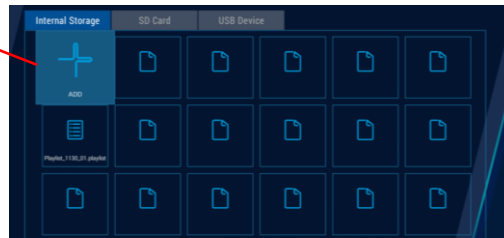
b. Clear All を選択しEnterを押しますと "Are you sure you want to clear all items that you selected?" と聞き返してきますが、OKを押して選択を解除下さい。

Playlistsの作成



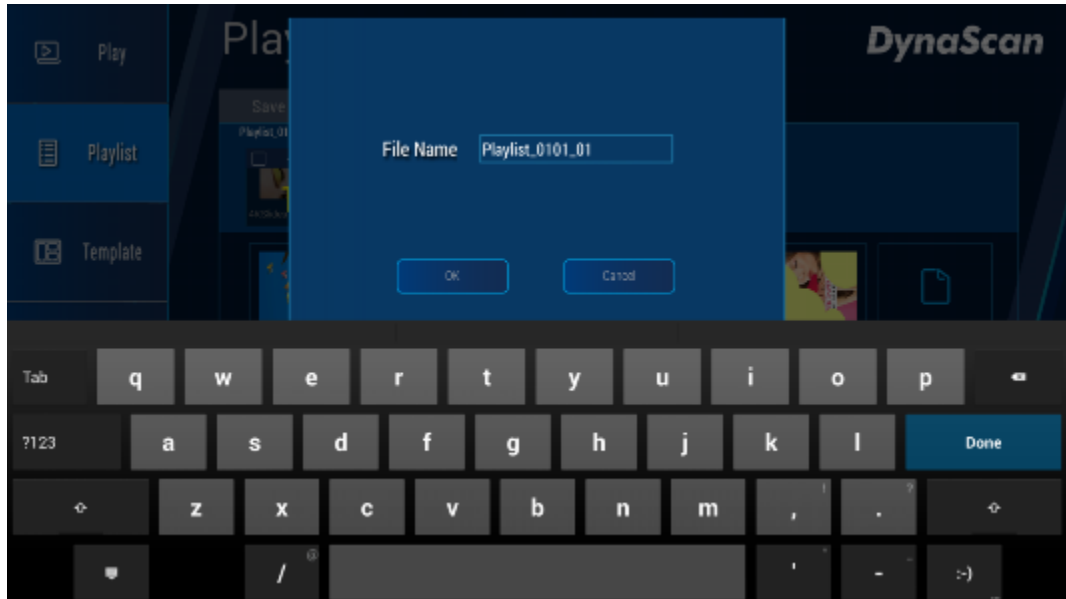
Playlistsとは再生するコンテンツの組み合わせを意味します。この組み合わせを何度も再生させたり、或いは時間帯により異なるPlaylistに切り替えて再生したりします。

USB Memoryを選択して+Addボタンに合わせ決定を押します。



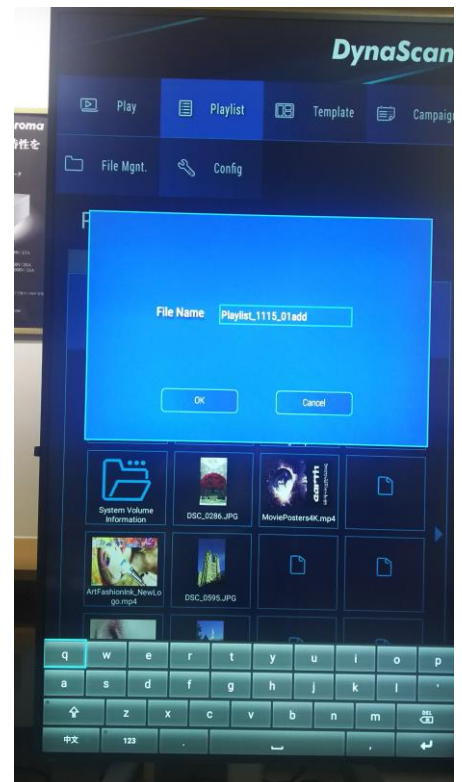
全てのコンテンツがサムネイル表示されますので、再生したい順に選択してPlaylistに列記させます。各静止画の再生時間はその静止画コンテンツを選択してエンターを押しますと再生時間(Duration)の時間設定の表示がされますので、時間を設定してください。ここではそれぞれの静止画コンテンツに異なる再生時間を設定することが可能です。

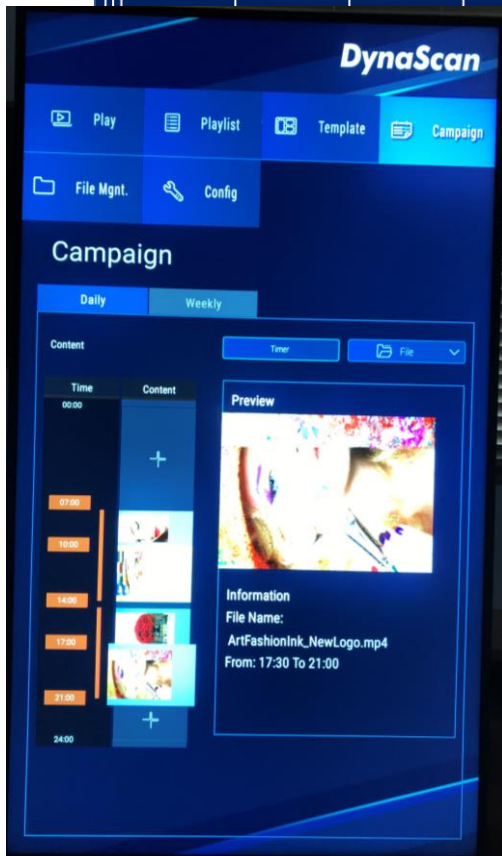
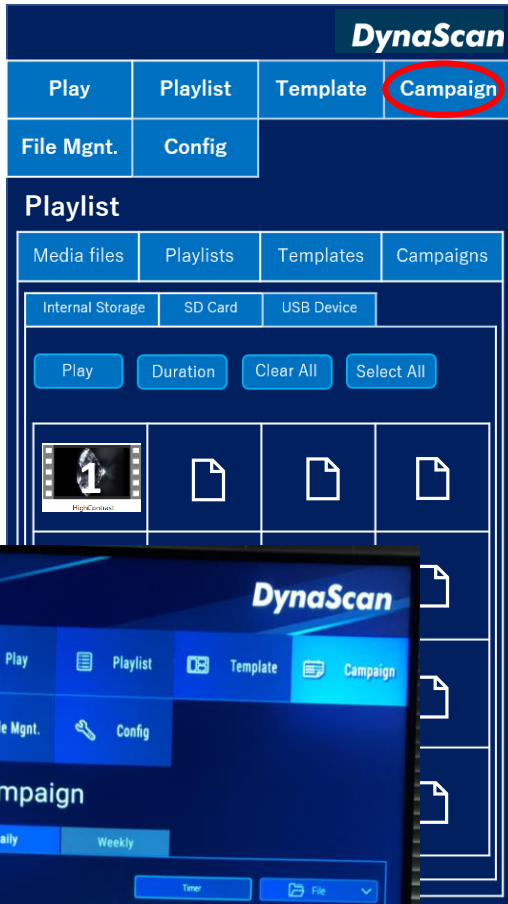




このPlaylistは”Playlist_0516_01”などのように月日と連番で仮のリストの名前がついています。その名前が宜しければ、[Save & Play]を選択・エンターして再生を開始させるか、或いは[Save as]でご自分で分かりやすいファイル名を表示されるキーボードを使用して設定しセーブしてください。作成したPlaylistが不要でしたらCancelして下さい。

Playlistは一つのみ選択・再生が可能です。





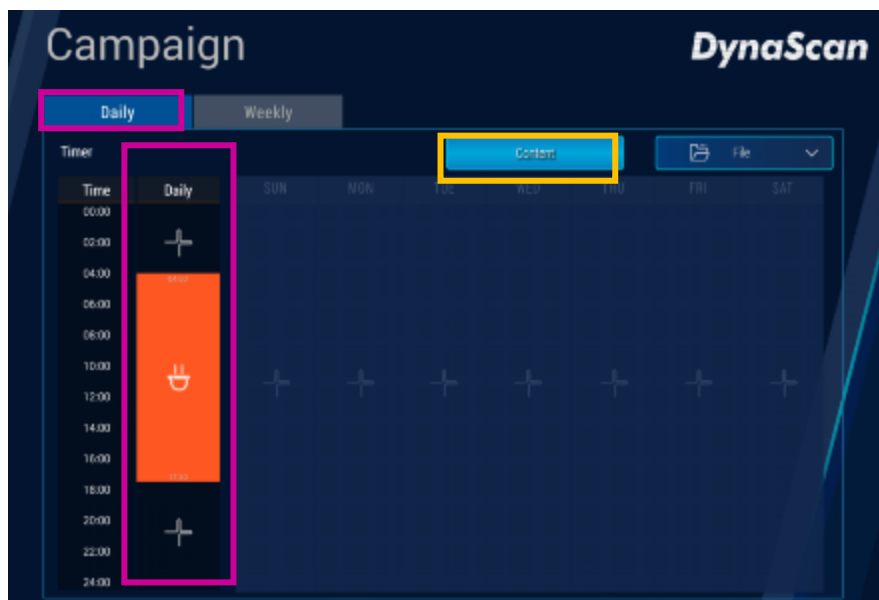
“Campaign”は所謂スケジューラで、作成されたコンテンツを好きな時間帯にそれぞれ再生する予定を設定します。

Daily: 一日のコンテンツ再生予定を30分刻みで設定します。毎日同じ内容が再生されます。初期設定になっています。

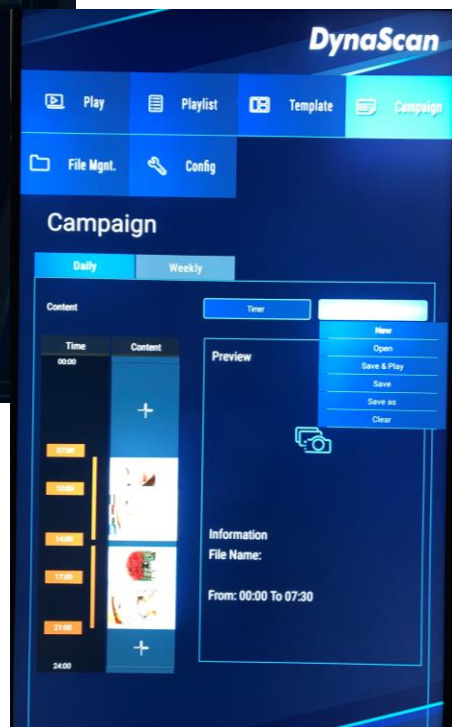
Weekly: 曜日ごとにそれぞれコンテンツ再生予定を30分刻みで設定します。

スケジュール表上の”+ADD”を選択して決定を押しますとその時間とコンテンツ選択のアイコンが表示されますので、再生したい時間を設定し、コンテンツを選択してください。コンテンツは組み合わせていろいろ選択が可能です。動画・静止画を組み合わせたPlaylistを再生するのが標準的な利用方法です。Playlist 1を10:00-13:00で選択すると次の

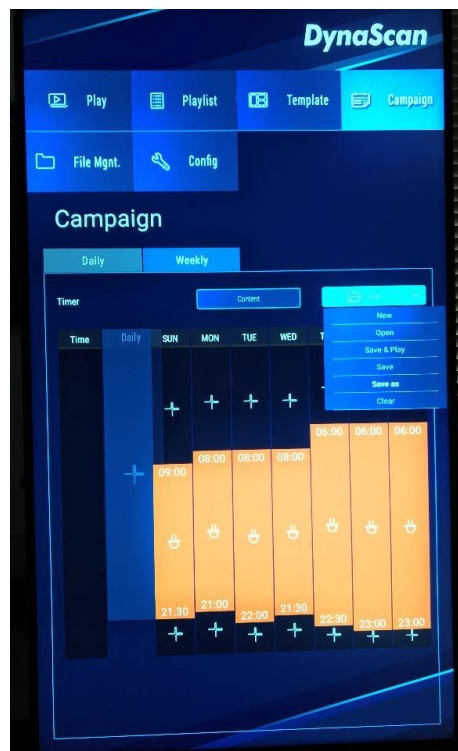
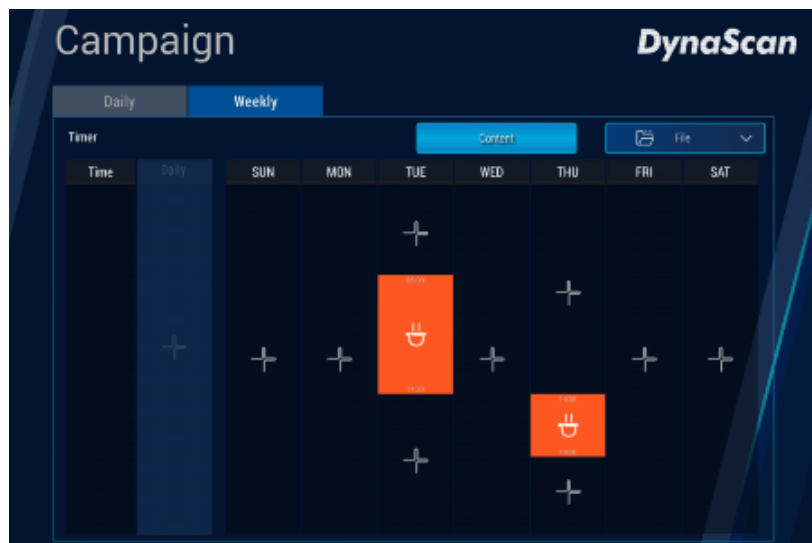
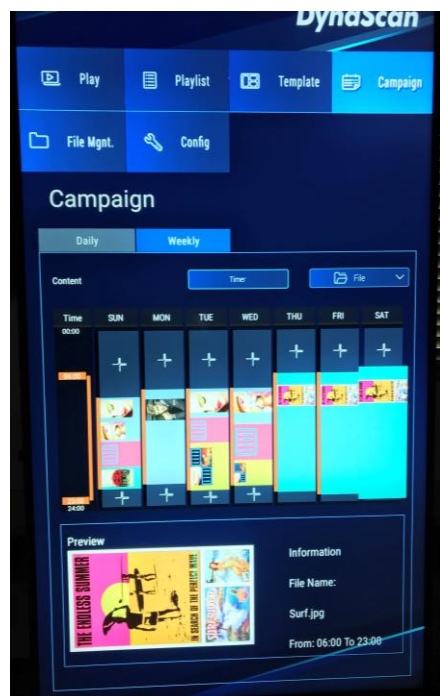
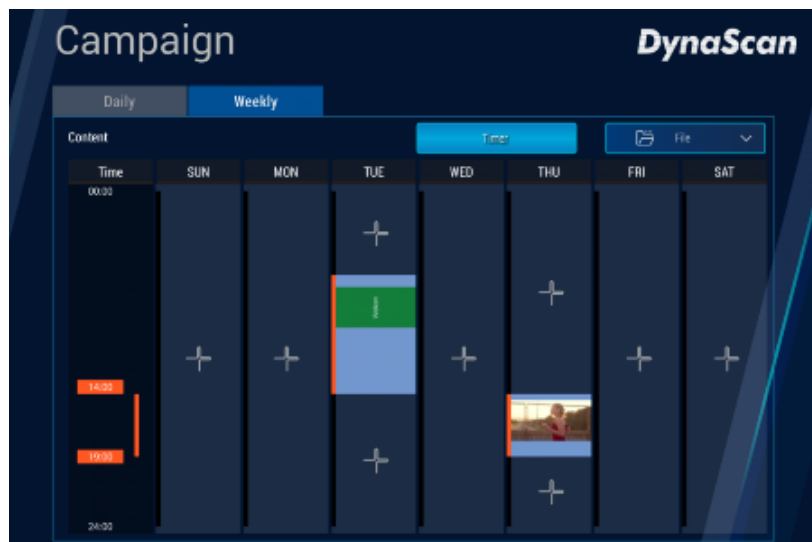
コンテンツ選択が13:00~で表示されますのでコンテンツを選択し終わりの時間を設定し決定します。この繰り返しで一日の再生予定を作成します。



黄色枠内の表示をTimerに切り替え、ディスプレイ電源のOn/Off時間を設定できます。



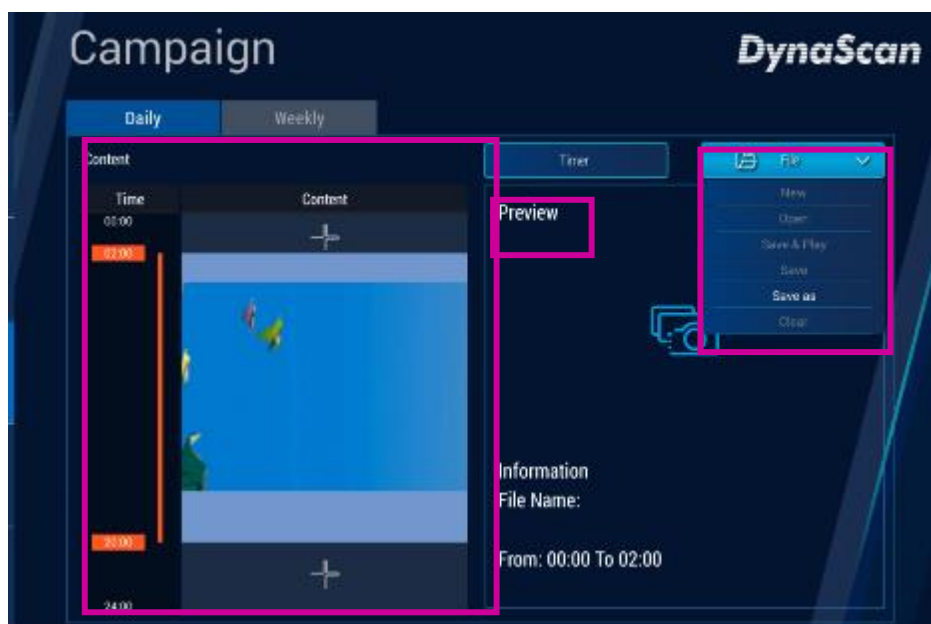
Landscape (横) 時画面



Weeklyを選択します。操作方法はDailyと同じ要領です。各曜日の一日の再生スケジュールを入力していきます。

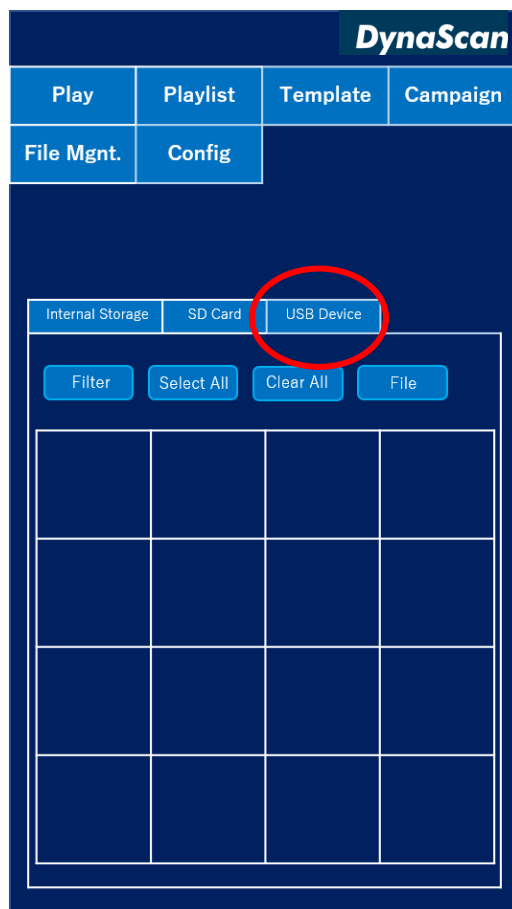
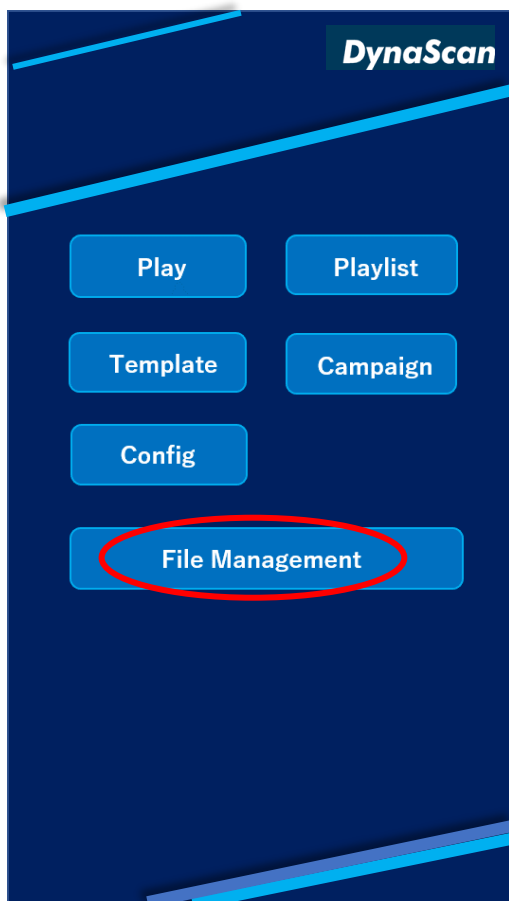
Timerここでは曜日ごとに異なる設定が可能です。Weeklyの設定作業は時間がかかることをご了承下さい。

Portrait (縦) 時画面



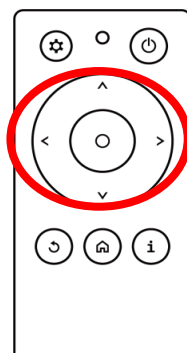
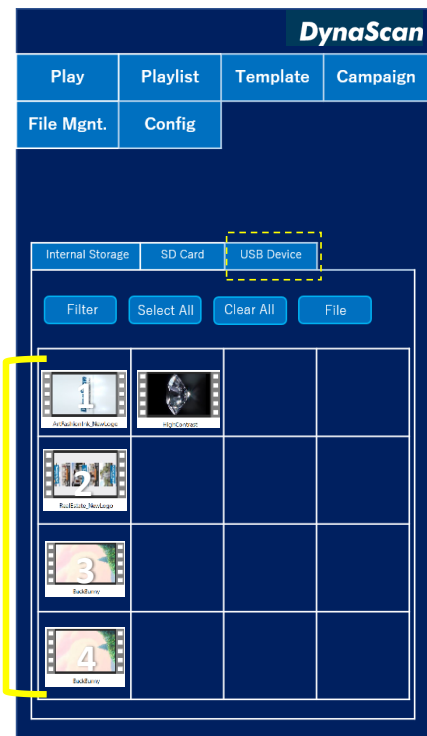
マウスカーソルをコンテンツ項目の上に合わせると横にプレビュー画面が表示されます。DailyもWeeklyも設定したら必ずFileを選択してSaveしてください。Fileを選択し上記画面のOpenを選択すると保存されたファイルを表示します。Save&Playを選択すると内容が保存され自動的に再生されます。Save Asを選択すると設定したスケジュールを別の名前で保存できます。

ファイルを内蔵メモリー へ移動する



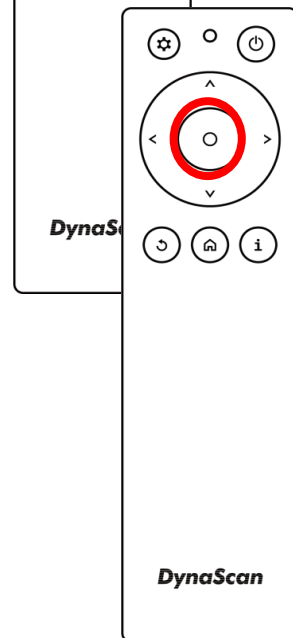
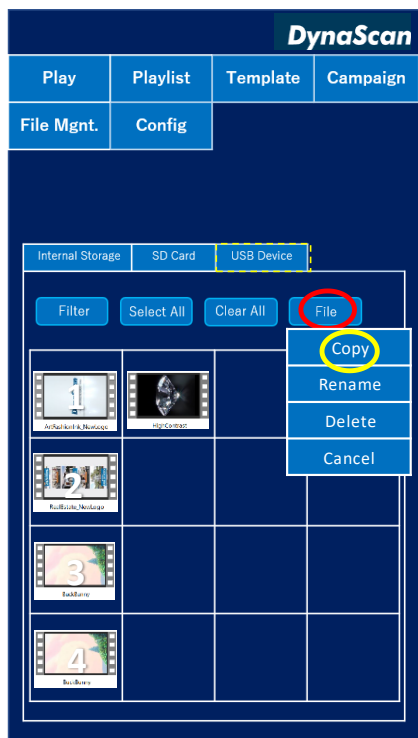
Menu画面より[File Management]を選択し、次の画面でUSB Deviceを選択し決定を押します。

ファイルを内蔵メモリーへ移動する



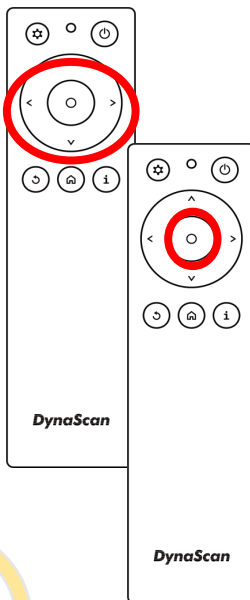
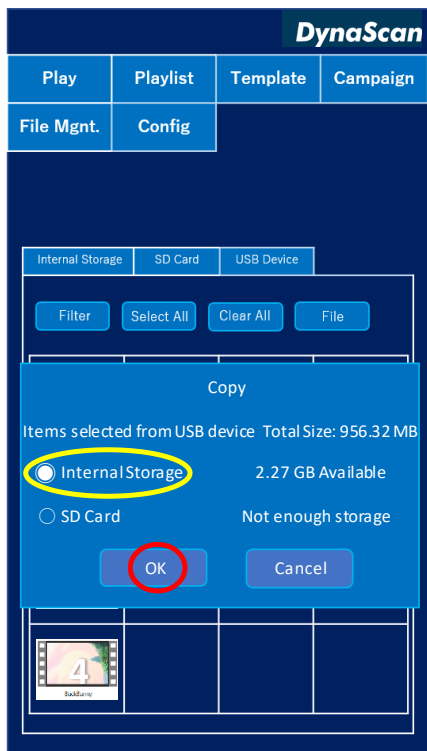
USBメモリに格納されたファイルが表示されますので、内蔵メモリーにコピーするファイルを選択しリモコンの決定ボタンを押します。

ファイルのサムネイル上に番号が表示されます。



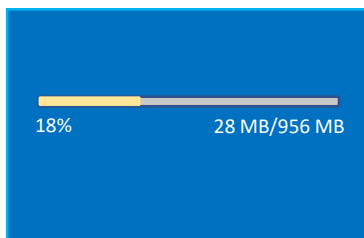
Fileボタンを選択し、リモコンで決定するとプルダウンメニューが表示されますのでCopyを選択し決定を押します。

ファイルを内蔵メモリー へ移動する

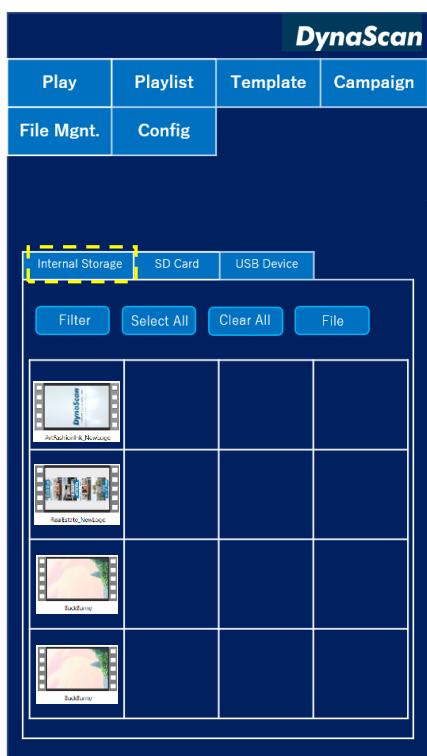


画面に表示されたメニューのInternal Storageを選択しOKを押す

左下の画面に切り替わり100%になるとコピー完了です。



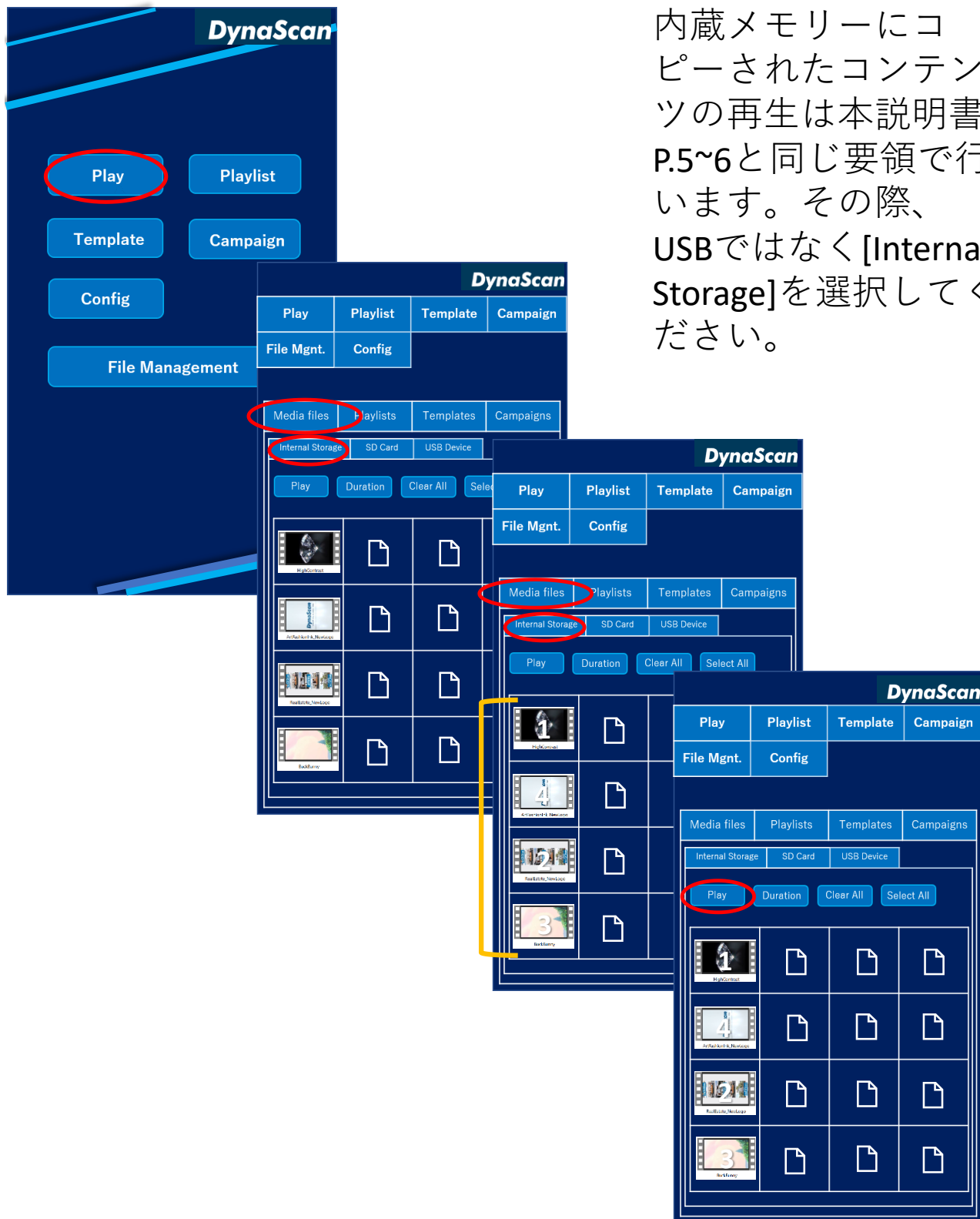
Internal Storageのタブを押すとコピー出来たか確認できます。
(コピーされたコンテンツのサムネイル表示がされます。)



※USBから内蔵メモリーにファイルをコピー後はUSBメモリーを抜いてしまってOKです。

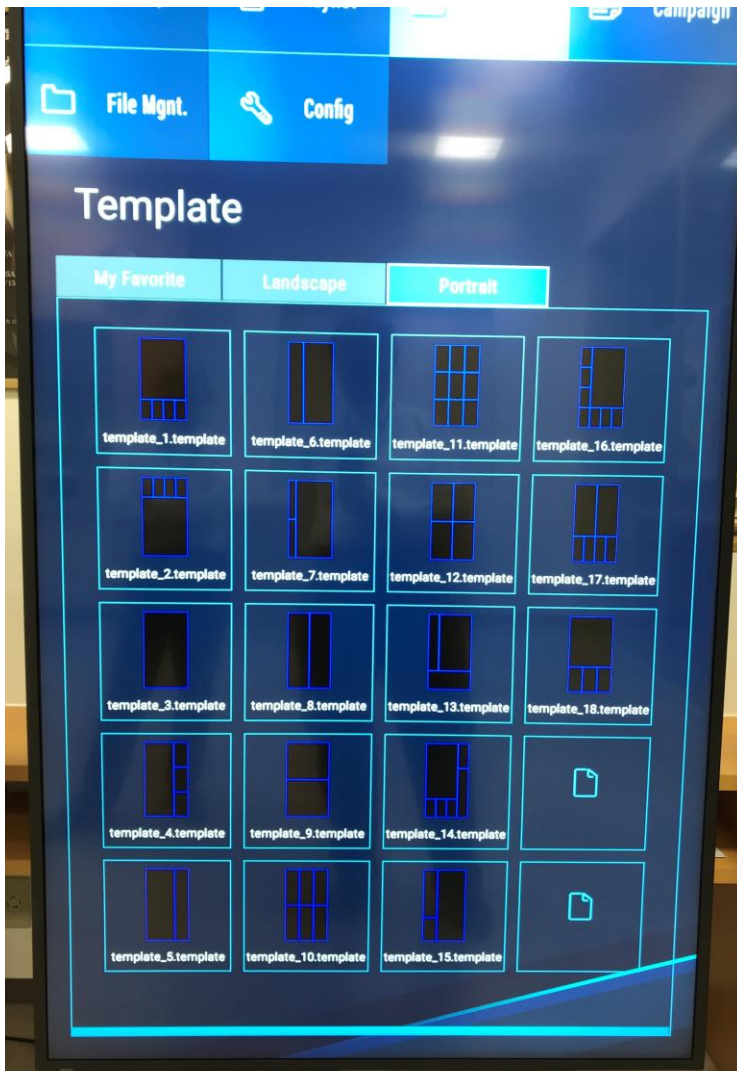
ファイルを内蔵メモリーへ移動する

内蔵メモリーにコピーされたコンテンツの再生は本説明書 P.5~6 と同じ要領で行います。その際、USBではなく [Internal Storage] を選択してください。



Templateは一枚の画面に異なるコンテンツを組み合わせた画面表示を作成するツールです。コンテンツの取り込みは内蔵メモリーに記録されたもののみ可能です。

(USBのコンテンツはまず内蔵メモリーにコピーする必要があります。本書P.13~15をご参照の上作業下さい。)



[Template]を選択し、Landscape(横向き)かPortrait(縦向き)を選択します。あらかじめ準備されたそれぞれ図柄が表示されます。

(横=18, 縦=19通り)

左図は縦の場合です。一つの図柄を選択します。その図柄で画像を埋め込むそれぞれの場所に+Addマークが出ますので順番にその位置で表示したいコンテンツを選択していきます。

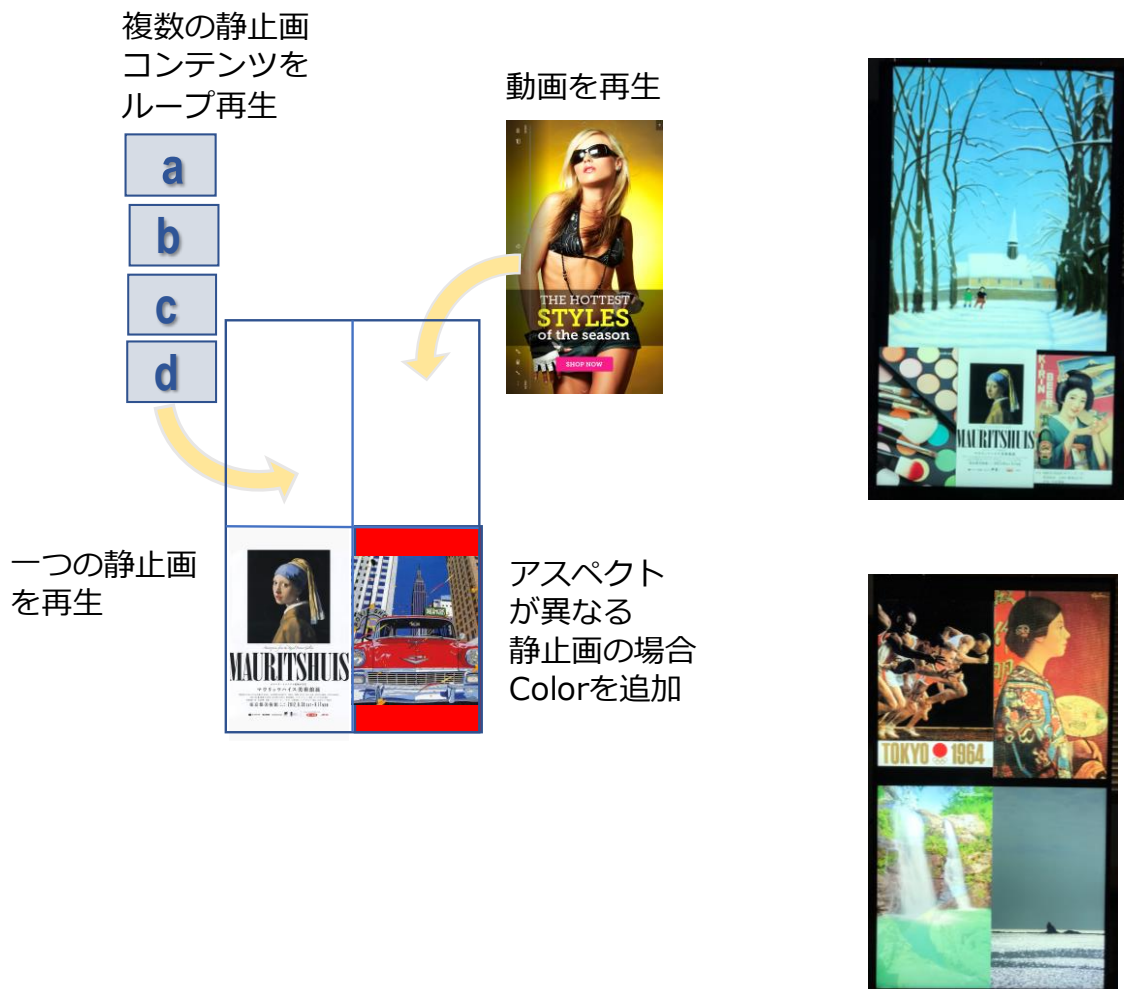
図柄のなかに配置するコンテンツについて動画コンテンツは一つのみとなります。

そのほかの場所には静止画コンテンツを配置してください。

尚、静止画コンテンツは一か所に何枚も登録可能です。
また、静止画コンテンツのプレイリストであれば、既に別の場所に動画コンテンツ、或いは動画コンテンツを含むプレイリストが配置されていても、使用可能です。

Background Color / Imageは画面でコンテンツとのアスペクト比が異なることにより見える背景の隙間の部分に色を追加するために使用します。

全て設定が終わったら**Save & Play**乃至**Save As**（この場合はキーボードが表示されますのでお好きなファイル名を設定してください。）でセーブしてください。



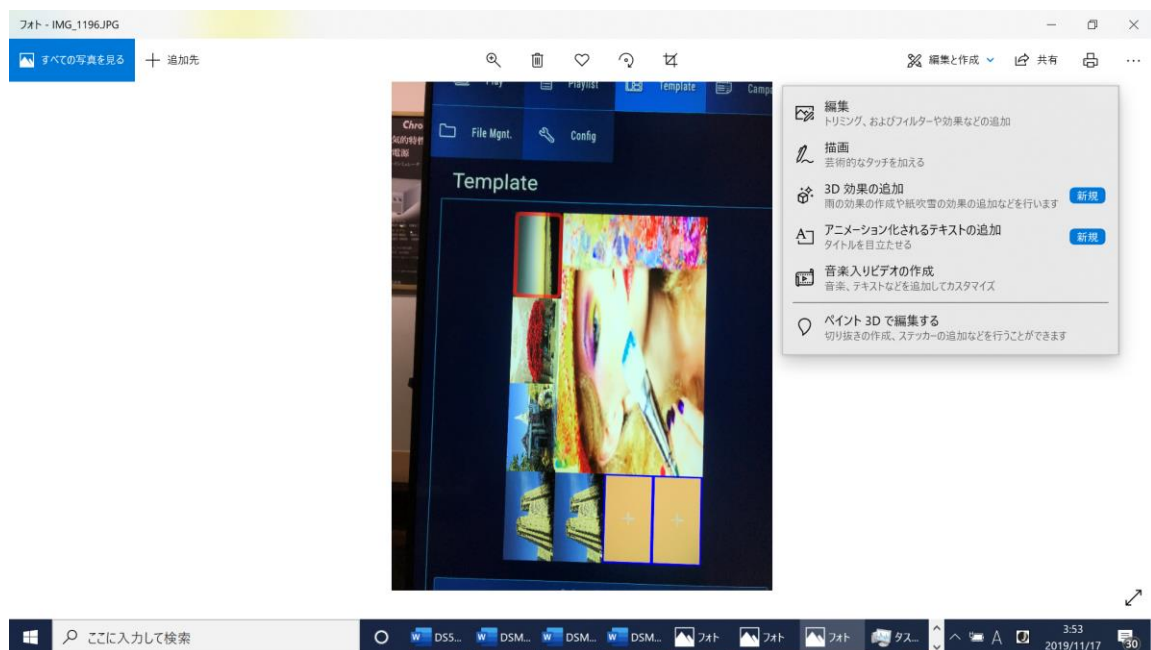
Template機能

Templateのパターンによっては元のコンテンツのAspect比とは異なる形状の構図になっています。

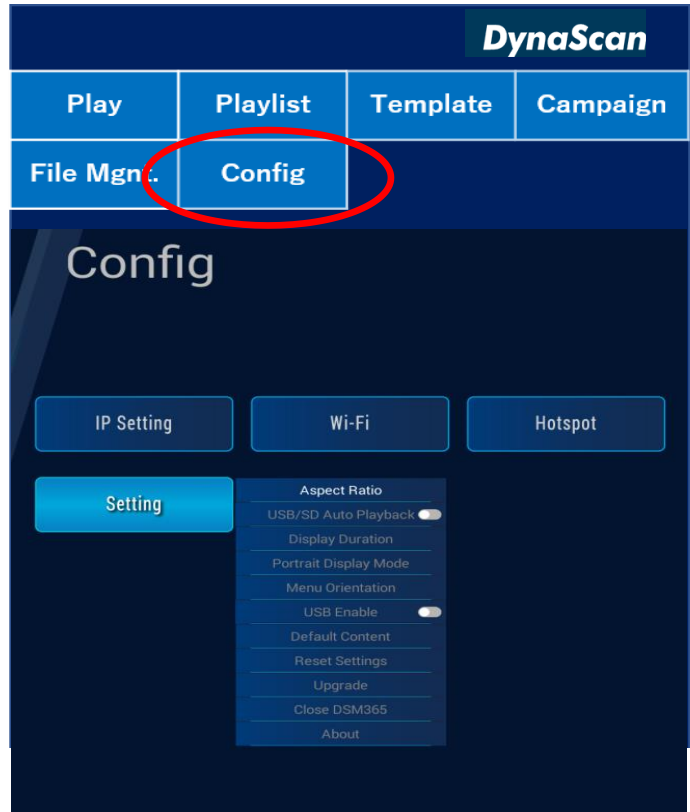
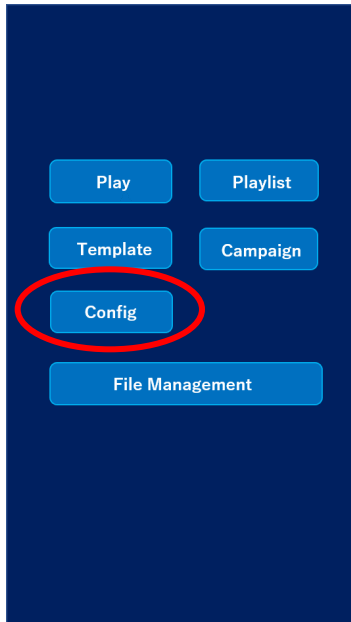
この場合は本書8項P.20の[Aspect Ratio]設定を切り替えて以下の図1のようにもとのAspect比を維持して表示するか、Aspect比を変えて各画面をフルに表示するか選択します。



注: 静止画などコンテンツの縦横合わせ、Aspect比の調整は下記画面のようにWindowsフォト等で調整が出来ます。



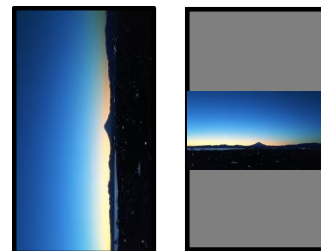
Config 基本設定



Menuから[Config]を選び同画面に移行します。[Setting]を選択すると設定項目が表示されます。[IP Setting], [Wi-Fi], [Hotspot]は操作しないで下さい。尚日本仕様はWi-Fi機能がありません。基本的に本項目は工場設定のまま操作する必要はありませんが、もしAspect縦横比が元の画面と異なる場合は[Aspect Ratio]のOriginalを選択、また、縦使用時に以下の場合には[Portrait Display Mode]のモード1,2を変更します。

| | |
|---------------------------------|--|
| Aspect Ratio (縦横比) | 解像度設定Full (フル) /Original (オリジナル) に比を調整します。 |
| USB/SD Auto Play (USB/SD自動再生) | USB/SDカードが差し込まれると、自動再生機能が有効になります。 |
| Display Duration (表示時間) | 画像のデフォルトの表示時間を設定します。 |
| Portrait Display Mode (縦向表示モード) | モード1-コンテンツは縦向きですが、解像度は横長モードで作成されます。 モード2-コンテンツは縦向きで、解像度も縦長モードで作成されます。 *縦長メニューの向きに対してのみを有効です。 |
| Menu Orientation (メニューの向き) | メニューの向きをAuto (自動) /Landscape (横長) /Portrait (縦長) に設定します。 |
| USB Enable (USB有効) | USB機能を無効にします。 |
| Default Content (デフォルトコンテンツ) | 画面がブランクになっている間は、デフォルトコンテンツが表示されます。 |
| Reset Settings (設定をリセットする) | 設定をデフォルトにリセットします。 |
| Upgrade (アップグレード) | DSM365バージョンをアップグレードします。 |
| Close DSM365 (DSM365を閉じる) | DSM365を終了します。 |
| About (情報) | DSM365の基本情報を表示します。 |

せんが、もしAspect縦横比が元の画面と異なる場合は[Aspect Ratio]のOriginalを選択、また、縦使用時に以下の場合には[Portrait Display Mode]のモード1,2を変更します。



Video CODEC

Shared internal memory and bus interface for video decoder and encode

Video Decoder

- ◆ Real-time video decoder of MPEG-1, MPEG-2, MPEG-4, H.263, H.264, AVS, VC-1, RV, VP6/VP8, Sorenson Spark, MVC
- ◆ Error detection and concealment support for all video formats
- ◆ Output data format is YUV420 semi-planar, and YUV400(monochrome) is also supported for H.264
- ◆ H.264 up to HP level 4.2 : 1080p@60fps (1920 x 1080)
- ◆ MPEG-4 up to ASP level 5 : 1080p@60fps (1920 x 1080)
- ◆ MPEG-2 up to MP : 1080p@60fps (1920 x 1080)
- ◆ MPEG-1 up to MP : 1080p@60fps (1920 x 1080)
- ◆ H.263 : 576p@60fps(720x576)
- ◆ Sorenson Spark : 1080p@60fps (1920 x 1080)
- ◆ VC-1 up to AP level 3 : 1080p@30fps (1920 x 1080)
- ◆ RV8/RV9/RV10 : 1080p@60fps (1920 x 1080)
- ◆ VP6/VP8 : 1080p@60fps (1920 x 1080)
- ◆ AVS : 1080p@60fps (1920 x 1080)
- ◆ MVC : 1080p@60fps (1920 x 1080)
- ◆ For AVS, 4:4:4 sampling not supported
- ◆ For H.264, Image cropping not supported
- ◆ For MPEG-4, GMC(global motion compensation) not supported
- ◆ For VC-1, upscaling and range mapping are supported in image post-processor
- ◆ For MPEG-4 SP/H.263/Sorenson spark, using a modified H.264 in-loop filter to implement deblocking filter in post-processor unit

JPEG CODEC

JPEG decoder

- ◆ Input JPEG file : YCbCr 4:0:0, 4:2:0, 4:2:2, 4:4:0, 4:1:1 and 4:4:4 sampling formats
- ◆ Output raw image : YCbCr 4:0:0, 4:2:0, 4:2:2, 4:4:0, 4:1:1 and 4:4:4 semi-planar
- ◆ Decoder size is from 48x48 to 8176x8176(66.8Mpixels)
- ◆ Maximum data rate is up to 76million pixels per second

* ごくまれに上記コーデックのファイルでも正しく再生できない場合がございます。
PC/USBメモリーを替えて再度記録・接続してみてください。